

SENTINEL
CONCEPT

・巻頭言「防災教育の始点」	1	・今年度定年退職教員	10
宮城教育大学同窓会会長(学長) 村松 隆		竹内 洋	10
・特集「防災教育最前線」	2	池山 剛	10
岡 正明	2	吉川 和夫	11
小田 隆史	3	浅野 治志	11
石塚 裕明	3	桂 雅彦	12
市川 孝仁	4	高橋 潔	12
三浦 美咲	5	・恩師は今	花島政三郎 13
・同窓会・ホームカミングデー報告	6	・支援・寄付について(報告)	13
泉 裕行	6	・親子DE同窓生	14
制野 俊弘	6	武田香代子・武田東子	
松本 顕康	7	・サークル今昔	15
野田 浩樹	7	邦楽部	小松 ユミ
・四コマ漫画「登山者の落とし物」		箏曲部	柴田 雛子
黒田 謙二	8	・事務局だより	16
・令和2年度(第33回)同窓会総会案内	8	・訃報	16
・同窓会事業・会計・予算	9	・編集後記	16
平成30年度庶務・会計報告			
令和元年度事業計画・予算			

vol.
31

発行人：宮城教育大学同窓会
 仙台市青葉区荒巻字青葉149 会長 村松 隆
 令和2年3月25日発行 印刷：株式会社宮城友栄社

山にありて

題字・加藤豊(仮名)教授

防災教育の始点

宮城教育大学同窓会会長(学長)

村松 隆



「地震って怖いのか？揺れて面白そうー！」
 仙台市の小学二年生男子が、楽しそうにこう言ったそうです。東日本大震災から九年が経ち、その時間の経過は新たな問題を生み出しています。
 宮城県では石巻市立大川小学校津波事故訴訟における最高裁の判断が二〇一九年十月に示され、原告(遺族)勝訴の高裁判決が確定しました。
 お子さんを失われた悲しみは到底私たちにわかるべくもなく、深い喪失感と共にこれから生きてゆかねばならないこと自体、筆舌に尽くし難いものであります。訴訟では地裁で教員の過失のみが認定されたのに対し、高裁では小学校と

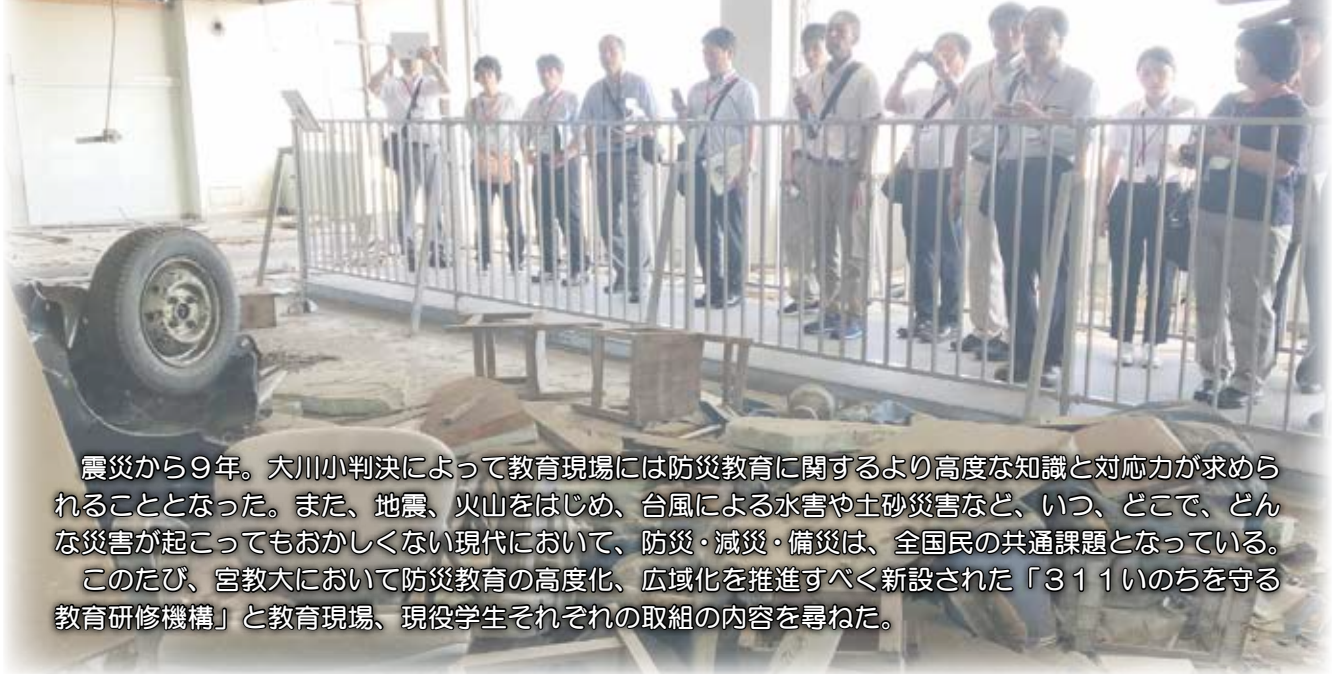
市教育委員会にも組織的過失があったと認められ、「事前防災として学校は高度なレベルの防災対策を取らねばならない」としたことは、教育に携わる者すべてに課される義務であるといえます。地元根差す教員養成大学として本学は、学校防災・学校安全に真正面から向き合わねばなりません。
 本学には防災意識の高い学生が多く、「子どもの命がひとつも失われない行動をとることを第一に考えられる教師になりたい」「震災で命の大切さを学び、そのことを子どもに伝えたいという思いで教員を目指した」「命の大切さが本当にわかれば、いじめ問題もなくなるはずだ」などの声が多数寄せられ、昨年四月「311いのちを守る教育研修機構」が発足しました。
 近年災害が多発し、「天災は忘れたところにやってくる」ではなく「天災は忘れる間もなくやってくる」になったと、誰もが実感しています。「大川小学校の悲劇を決して繰り返してはならない」…このことを片時も忘れず、常に厳粛に受け止め、自らに問い続けることが、本学の防災教育の始点であります。

特集

防災教育最前線

～今、教育に何ができるか～

—「311いのちを守る教育研修機構」と教育の現場から—



震災から9年。大川小判決によって教育現場には防災教育に関するより高度な知識と対応力が求められることとなった。また、地震、火山をはじめ、台風による水害や土砂災害など、いつ、どこで、どんな災害が起こってもおかしくない現代において、防災・減災・備災は、全国民の共通課題となっている。

このたび、宮城大において防災教育の高度化、広域化を推進すべく新設された「311いのちを守る教育研修機構」と教育現場、現役学生それぞれの取組の内容を尋ねた。

学校防災に強い教員の育成をめざして



防災教育研修機構長
連携担当理事・副学長

岡 正明

あの東日本大震災から九年が経ちました。発生当時に小学生だった子どもたちが、現在の大学一年生です。時間の経過とともに、震災の記憶が薄れてきたとも言われています。

宮城教育大学では、震災直後の二〇一一年六月に「教育復興支援センター」を設置して被災地の教育復興にいち早く取り組み、二〇一六年四月には「防災教育未来づくり総合研究センター」に改組しました。これらのセンターの成果を基盤として、二〇一九年四月、宮城教育大学防災教育研修機構「311いのちを守る教育研修機構」を設置いたしました。

この機構は、本学学生の防災・減災に関する知識と技術の向上、および全国の学校における防災教

育充実への寄与を設置目的としています。震災から得られた学校等における教訓を収集・分析し、それらを教育研究、研修、情報提供に活用するとともに、令和二年度からの新設科目も含めて学部・大学院の防災教育関連授業を整備し、学校防災に強い教員を育成してまいります。

文部科学省からの通知（令和元年十二月）にもありますように、自然災害に対する学校防災体制の強化が求められる中、本機構の果たすべき役割は益々大きくなっています。防災教育研修機構は、宮城県、仙台市、地域の学校、東北大学などの大学、宮城県以外の各県、その他の関係する行政機関、研究組織等と協力し、また同窓会会員のみならずさまざまのご支援をいただきながら事業を進めてまいります。今後とも、ご指導をよろしくお願いいたします。

宮教大にわたる震災復興



生涯教育総合課程
国際文化専攻
平成十三年度卒
小田 隆史

二〇一九年四月に、従前の復興・防災関係センターを改組し、防災教育研修機構（別名「311いのちを守る教育研修機構」）が設置されました。

震災から十年という一つの節目が目前に迫っています。これまでの宮教大の教育復興支援と学校防災の知見・経験を駆使して、新た



教員向けの防災研修（気仙沼階上地区）

なカリキュラムを開発し、被災地を含む東北の次代の教師の育成、そして首都直下や南海トラフ巨大地震の想定域等の教職員向けに被災地での研修機会を提供する拠点を目指すものです。二〇一九年度、高知や和歌山など全国から多数の受講者を得ました。

二〇一三年度から開講している学部の防災必修科目に加えて、二〇二〇年度から「学校防災教育概論」と「学校防災教育演習」という基礎科目が新設されます。また学生有志による「311ゼミナール」も始動し、学生が震災と向き合い、そこから未来を描き、防災を学ぶ機会を充実させています。

「防災に強い教師を育成している」―大学として本学が抜きん出て全国に知れ渡るそんなときこそ、宮教大が震災復興を成し遂げたと言えるのかもしれない。

一九九〇年代末の就職氷河期、教員採用率も低かったあの時代にあって、国立大の法人化前夜、牧歌的な青葉山にありて「ゼロ免」課程に学んだ私ですが、母校に奉職し、改めて教育のもつ可能性に魅せられています。

各地で震災伝承や防災教育において活躍されている同窓生の方々と手を携えながら、宮教大の震災復興への道のりの歩みを着実に進めたいと思います。

（防災教育研修機構

副機構長・准教授）



伝承を通じた防災教育実践ポータル「災害メモリアルに学び、描く未来」（機構が運営）

<http://drr.miyakyo-u.ac.jp/memories/>

「いのち」を守る



特別理科教員養成課程
地学専攻
平成四年度卒
石塚 裕明

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。私は現勤務校で被災した。あれから早九年。あの時の教訓を生かし、かけがえない命を守るために、本校においても様々な防災教育を実践してきた。その取組みの一つが「大雨防災ワークショップ」である。近年急増する大雨や洪水に対応した気象庁の防災教育プログラムであるが、他の



防災の取組を発表する様子

自然災害にも十分応用できると考えている。本校では平成二十八年から名取市内の小・中・高と連携し、実際の名取市の地図等を使用する工夫も取り入れながら実施してきた。刻一刻と変わる防災気象情報や避難情報から、どの段階で、どのように判断し行動するか、限られた時間の中で子どもたち自らが命を守るための行動を考える。

昨年十一月、311いのちを守る教育研修機構の支援のもと、宮城教育大学（学生二十三名）と名取北高校（生徒十六名）が連携し、「防災教育」「高大連携」「教員養成」の三つの目的を掲げ、大雨防災ワークショップを開催した。大學生と高校生が一つの家族となり、危機を乗り越える中で交流が生まれ、大変有意義な企画となった。

学校は多くの命を預かる所であると同時に、命の大切さを教える所でもある。一人の人間には、無限の未来の可能性が秘められている。その命を守り育むために、人と人との縁を大切にしながら、「いのち」を守る教育を実践していきたいと考える。

（宮城県名取北高等学校勤務）



グループワークの様子

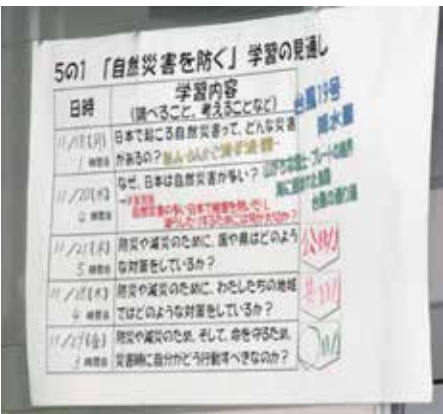
命を守るための「情報活用能力」



学校教育教員養成課程
社会科教育専攻
平成十三年度卒
市川 孝仁

「これまでの河川堤防の決壊は、全国で年間三件程度でした。それが近年は年間三十件程に増え、過日の台風十九号では、数日間だけで約百四十件の決壊がありました。」

今年度（令和元年度）、教職大学院で学修の機会をいただいた私は、講義演習の一環として防災教育の授業実践（五年社会「自然災害を防ぐ」）を行った。冒頭の話は、大



本単元の「学びのプラン」



地域の防災対策の目的を考える授業（第4時）

学院の講義演習の際、国土交通省東北地方整備局の方からうかがったお話である。もちろん、国や県は治水整備を鋭意進めているが、それを上回る気象状況の急激な変化が起こっている。それゆえ、正確な情報収集と早めの避難が必要になってくるが、「自分は大丈夫だ」と避難行動をとらない人も多い。

そこで、授業では教科の目標や指導内容を基に、ズバリ、命を守るための「情報活用能力」の育成をねらった。例えば、「今後、二十四時間の降水量が仙台市西部で八百ミリ」といったニュースを聞



避難行動を考える子どもたち（第5時）

いても、ピンとこなければ避難しない。反対に、その状況がイメージできればすぐに命を守る行動を考える。授業では、情報の内容を理解するための知識やイメージを共有し、超大型台風が接近した場合、情報を活かしてどう避難を判断するか話し合った。子どもたちの感想からは、「情報があるかないかは命にかかわる。正確な情報を集め、早めの避難を判断することが大事。」といった声が聞かれた。まさに、命を守るための「情報活用能力」が育っている瞬間であった。

（仙台市立田子小学校勤務）

311ゼミナール



初等教育教員養成課程
理科コース三年
三浦 美咲

311ゼミナールは今年から活動をはじめた学生主体のゼミで、現在約三十名が所属しています。東日本大震災をベースとして、「宮城教育大学の学生に向けて発信しなければならぬ震災」とは何かを考えつつ、それぞれのテーマに沿って活動しています。テーマは大きく三つあり、「教育現場



活動方針を決める話し合い

での防災教育」「福島線の放射線問題」「ゼミ生の学校避難体験の追体験と検証」です。それぞれグループに分かれて活動しています。

私は、その中の「ゼミ生の学校避難体験の追体験と検証」を行うグループに所属しています。私ともう一人のゼミ生の学校避難の体験を基に、実際に現場に足を運び、避難を追体験し検証することで、学校避難において子供たちの命を守ることであった要因やこれからの学校避難に必要なことについて考えるという活動をしています。

私自身は、宮城県南三陸町立名足小学校で被災し、学校避難の体験をしました。この体験について、真剣に向き合ったことがありませんでした。しかし、このゼミを通して、自分の避難体験について初めて向き合うことができ、新たに伝えてきたことが多くありました。

私は、被災経験の有無に関係なく、それぞれの視点から子供の命を守ることや防災について考えることができると思っています。防災について知識を蓄え、たくさんの方の意見を共有し、考え、宮城教育

大学の学生や学外に発信していく場としてこのゼミを利用してほしいです。



旧石巻市立門脇小学校視察



南三陸町立名足小学校視察

同窓会 ホームカミングデー 報告

日時：令和元年8月10日(土)
会場：宮城教育大学萩朋会館2階
参加人数：54人

〔プログラム〕

- 1 同窓会総会
- 2 大学・同窓会合同催事
 - 第1部 特別講演
「命と向き合う教室
～被災地の子どもたちの声を聞き合う～」
和光大学准教授 制野 俊弘 氏
 - 第2部 サークル発表
 - 1 箏曲部
 - 2 民族芸能研究会びっさい
 - 第3部 大学・同窓会合同懇談会

第三十二回同窓会は、昨年度に引き続き、ホームカミングデーとの合同開催として宮城教育大学萩朋会館で開催されました。同窓会総会の後、大学・同窓会の合同催事として、特別講演と箏曲部・民族芸能研究会びっさいによるサークル発表が行われました。懇親会は、萩朋会館の二階にて立食パーティ形式で行われました。幹事学年を中心に和気あいあいとした雰囲気の中、同窓生、現役学生、大学関係者が宮教大についてともに語り合う姿が見られました。

平成から令和へつなぐ同窓会

窓生のご参加をいただき、無事に開催できましたことに深く感謝申し上げます。

小学校教員養成課程・教育心理学コース
昭和六十三年度卒
実行委員長

泉 裕行



令和元年度同窓会が、村松隆

学長をはじめ、多くのご来賓や同

昨年度担当の先輩方から同窓会の世話を引き継ぎ、定期的に連絡を取っていた十名ほどの同級生を頼りに名ばかりの実行委員会を組織しました。大学のホームカミングデーとの合同開催を継続し、懐かしくも新しい萩朋会館を会場として、総会や合同催事、懇親会



特別講演

を行いました。

同級生の和光大学制野俊弘准教授には、「命と向き合う教室」被災地の子どもたちの声を聞き合う」と題して、特別講演をしていただきました。震災後の子どもたちの思いや生の言葉に触れ、目頭を熱くしました。

懇親会では、大学関係者、同窓生、先輩・後輩、現役学生が共に語り合い、交流を大いに深めました。

私たちの代は平成元年卒業で、三十年ぶり、ほぼ一時代ぶりに顔を合わせた同級生もいました。外見は各々年を重ねているものの、言葉を交わせばすぐに学生時代に

戻り、思い出の数々がよみがえってきました。

教職に携わる私たちの原点がここ宮城教育大学にあったこと、これまで学校教育を支えてきたという「自負」、未来の子どもたちへの「責任」等、卒業後三十年を経たからこそ抱えている教育への思いを、改めて確かめ合うことができた同窓会でした。

事務的な面で支えていただいた学生課職員の皆様、運営に協力いただいた同級生、ご参加いただいたすべての皆様に重ねて御礼申し上げます。

(仙台市立茂庭台小学校勤務)

私たちの紐帯

中学校教員養成課程・保健体育専攻
昭和六十三年度卒

制野 俊弘



泉裕行委員長から突然の講演

依頼に、同窓生たちの懐かしい面々を思い浮かべながら、快くお引き受けいたしました。震災後に



箏曲部によるサークル発表

綴った子どもたちの苦しい胸の内を、子ども同士が聞き合う授業の報告でした。作文を綴らせる目的の一つは、この「聞き合う」関係をつくることにあります。この関係なしでは綴方教育は成立しません。

集まった同窓生、関係者の方々は、子どもの声に真剣に耳を傾けてくれました。これこそ教育系大学の素晴らしさ。卒業以来、三十余年。それぞれに重ねた月日が、一瞬で交錯したのを感じました。他の子どもを、わが子どものように感じる感性こそが、私たちが一つにする紐帯です。中学生が綴った作文が、私たちを結び付けてく

れました。

国分町での夜の延長戦。かつての「合宿所」の光景が、眼前に展開されると同時に、五十歳の面々にあの若かった頃の生気が、みえる蘇るのでした。知らぬ間に衰える体に対し、頭の記憶はますます冴えわたり、笑いととも、思わぬ想い出が脳内を滑走していききました。

翌朝。頭の痛さよりも、一瞬かすめた遠い記憶の余熱が、脳内をほのかに温めていました。そして、いつか再会することを静かに誓うのでした。同窓会の開催に向けて、骨を折ってくれた仲間たちに改めて感謝いたします。

(和光大学勤務)

同窓会に参加して



松本 顕康

中学校教員養成課程・数学専攻
平成元年度卒

しぶりに仙台を訪れました。大学同窓会に参加するために、久



元応援団長によるエール

構内を散策すると、大学時代のことが思い出されます。男子寮や所属していた応援団や自然研究会で一緒に過ごした大切な仲間のことを。また、大学の講義については「生徒をしつかりと見つけた授業の大切さ」を、教えられたことが印象に残っています。当時から、「主体的・対話的で深い学び」を実践していたのだと思います。とても素晴らしい大学生活を送ることができたと感じています。現在は、茨城県の高専学校に勤めていますが、宮教で学んだことを誇りに、残り少ない教員生活を全うしたいと考えております。(茨城県立日立第一高等学校勤務)

同窓会総会を振り返って

中学校教員養成課程・保健体育専攻
昭和六十三年度卒



野田 浩樹

昨年、大学の同級生からの年賀状には、「今年と同窓会の担当学年だぞ」、「八月に会おう」、「講演は制野に決まったよ」と同窓会総会のお誘いの言葉が書かれていました。

大学を卒業し、現在は茨城県つくば市に在住し、中学校教員を務めております。妻が仙台出身なので、お盆や正月には仙台で過ごすこともありましたが、同窓生と会う機会はめったにありませんでした。

久々の同窓生との再会でしたが、参加者が集まってくるとともに、まるで在学当時のような賑やかさになり、うれしさ、というよりは、安堵しました。

今回、講演をしてくれた制野先生には、以前、無理を言って、私

登山者の落とし物

黒田 謙二



の勤務校で生徒や保護者、地域の方々に向けた、「命の授業」の講演をお願いしたことがあります。来校した際の、「今までの俺の活動や考え方は、宮教大で学んだことが土台なんだ」という言葉が、今でも忘れられず、今回集った皆さんとの再会をとおして、共に学べた喜びを改めて感じていました。総会、懇親会等、泉委員長をはじめ、委員の皆さんにはこういった場を、今回も設定してください。また、今後とも、全国にいる同窓生の心の支えでもある宮教大同窓会の繁栄を祈っております。



また生協のカツカレーを食べに母校を訪れたいと思っています。
(茨城県石岡市立国府中学校勤務)



三十年ぶりの再会

小・美術ビーク 昭和五十三年度卒

令和2年度（第33回）同窓会総会第一次案内

令和2年度（第33回）の同窓会総会は、下記の要領で開催されます。
皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

〔日時〕 令和2年8月8日(土)午後2時

〔会場〕 宮城教育大学

実行委員／平成元年度、平成11年度、平成21年度卒業生

※宮城教育大学ホームカミングデーとの同時開催を予定しています。
また、開始時刻については変更になる場合があります。

平成30年度 庶務報告

- (1)総会開催 平成30年8月4日 宮城教育大学 (2)理事会開催 平成30年8月4日 宮城教育大学
 (3)総会実行委員会設立 昭和62年度、昭和63年度、平成9年度、平成19年度卒業生担当
 (4)会報「山にありて」30号発行 30記念号ということでページ増にて発行しました。また、会報送付にあたっては、平成27年度総会での決定に基づき、会費未納者に対しては隔年送付にしています。
 (5)学生自主活動支援 学生の自主活動支援金として、1回目7団体、2回目10団体、合わせて17団体に合計502,466円を支援しました。

平成30年度 会計報告

単位(円)

- (1)会計期間 平成30年4月1日から平成31年3月31日
 (2)収支概況 収入総額 6,972,240
 支出総額 6,972,240
 差引残額 0

- (3)繰越金の処理について 積立金+繰越金計 5,547,714 次年度繰越金 1,547,714
 積立金 4,000,000

- (4)財産状況(平成31年3月31日現在額) 現金・預金合計 5,547,714
 現金 11,011
 預金 3,088,703 (ゆうちょ銀行 普通預金)
 2,448,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

*繰越金から積立金を区分して表示する目的は当該年度の収支状況をわかりやすくするためです。
 *現段階では積立金の目的は決まっています。
 *今後、積立金を取り崩して収入の部に組み入れる際は総会で承認を受けるものとします。

(5)補足

- *会費収入について、平成29年度決算額428名(在学生320、卒業生108)から納入があったのに対し、平成30年度は399名(在学生333、卒業生66)から納入があり、前年度比232,000円減となりました。
 *平成29年度同窓会総会での決定に基づき、平成29年度9月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学学生課に委託しています。
 *平成29年度と同様に、卒業記念品としてクリアファイル(5色)を作成し、平成31年3月の学位記授与式にて学部卒業生および大学院修了生に贈呈しました。
 *ホームカミングデーにて実施した平成22年度卒業式の参加者に対して記念品を贈呈しました。

1. 収入の部

項目	平成30年度予算額	平成30年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	3,780,217	3,780,217	0	
2. 会費	2,400,000	3,192,000	792,000	399名(在学生333名、卒業生66名)
3. 利子	30	23	△7	
4. 雑収入	0	0	0	
合 計	6,180,247	6,972,240	791,993	

2. 支出の部

項目	平成30年度予算額	平成30年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	40,000	39,781	△219	
(1) 事務費	15,000	11,701	△3,299	
(2) 通信費	20,000	25,140	5,140	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	5,000	2,940	△2,060	
2. 事業費	3,710,000	3,875,745	165,745	
(1) 総会費	20,000	0	△20,000	懇親会費は除く
(2) 会報発行	800,000	963,300	163,300	山にありて30号13,000部
(3) 会員情報管理費	1,200,000	1,240,841	40,841	データ管理等
(4) 学生活動援助	500,000	502,466	2,466	2回、計17件
(5) 広報費	145,000	124,138	△20,862	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	1,045,000	1,045,000	0	平成29年度未納分(385,000)、平成30年度(660,000)
3. 雑費	0	8,000	8,000	同窓会費納入重複分返金(1件)
4. 予備費	965,247	0	△965,247	
5. 寄付	50,000	86,000	36,000	
(1) 大学業務等支援寄付金	50,000	86,000	36,000	平成29年度(30,000)、平成30年度HCD記念品(56,000)
6. 積立金	1,415,000	1,415,000	0	
7. 次年度繰越金	0	1,547,714	1,547,714	
合 計	6,180,247	6,972,240	791,993	

3. 積立金の部

項目	平成30年度予算額	平成30年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	4,000,000	4,000,000	0	
(1) 前年度までの積立	2,585,000	2,585,000	0	
(2) 当該年度積立	1,415,000	1,415,000	0	

令和元年度 事業計画

- (1)総会開催 令和元年8月10日 宮城教育大学 (2)理事会開催 令和元年8月10日 宮城教育大学
 (3)総会実行委員会設立 昭和63年度、平成10年度、平成20年度卒業生担当
 (4)会報「山にありて」31号発行 (5)学生自主活動支援

令和元年度 予算

単位(円)

- (1)会計期間 平成31年4月1日から令和2年3月31日
 (2)収支概況 収入総額 3,947,744
 支出総額 3,947,744
 差引残額 0

*予備費を計上する目的

予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決済します。

1. 収入の部

項目	平成30年度決算額	令和元年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	3,780,217	1,547,714	△2,232,503	※積立金計上により繰越金が減額(300名×8,000円)
2. 会費	3,192,000	2,400,000	△792,000	
3. 利子	23	30	7	
4. 雑収入	0	0	0	
合 計	6,972,240	3,947,744	△3,024,496	

2. 支出の部

項目	平成30年度決算額	令和元年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	39,781	45,000	5,219	
(1) 事務費	11,701	15,000	3,299	
(2) 通信費	25,140	25,000	△140	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	2,940	5,000	2,060	
2. 事業費	3,875,745	3,355,000	△520,745	
(1) 総会費	0	100,000	100,000	講師謝礼、ホームカミングデー支援
(2) 会報発行	963,300	700,000	△263,300	山にありて31号13,000部
(3) 会員情報管理費	1,240,841	1,250,000	9,159	データ管理、会報発送等
(4) 学生活動援助	502,466	500,000	△2,466	
(5) 広報費	124,138	145,000	20,862	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	1,045,000	660,000	△385,000	55,000×12ヶ月
3. 雑費	8,000	0	△8,000	
4. 予備費	0	497,744	497,744	
5. 寄付	86,000	50,000	△36,000	
(1) 大学業務等支援寄付金	86,000	50,000	△36,000	記章
6. 積立金	1,415,000	0	△1,415,000	
7. 次年度繰越金	1,547,714	0	△1,547,714	
合 計	6,972,240	3,947,744	△3,024,496	

3. 積立金の部

項目	平成30年度決算額	令和元年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	4,000,000	4,000,000	0	
(1) 前年度までの積立	2,585,000	4,000,000	1,415,000	
(2) 当該年度積立	1,415,000	0	△1,415,000	

今年度 定年退職教員

この春、お世話になった六名の先生方が定年を迎えられ
ご退職されます。在学期間中の思い出や、宮城教育大学
学生に対する思いを記していただきました。

退職にあたって



社会科教育講座
教授
竹内 洋

このたび定年退職となりました。着任から二十七年。思えば、自己の責務と思うところを果たす上で、幾人かの先輩方から多くのご指導、ご助言を賜りましたが、そのどれだけを生かすことができたか、まことに心許ない限りです。また、同輩後輩諸兄弟姉がその責務を果たす上で私はどれだけの支援をなしたか、これもまた実に心許ない

ことであります。

私は、大学運営のことを別とすれば、自発的に勉強しようとする方々の求めに応じて主に経済学の古典の研究のお手伝いをしてきました。ただ、その方々がそこから何かを得たとすれば、それはその方々が、私のアドバイスを導きの糸にしたか否かにかかわらず、結局は自分で学問に取り組んだからであります。私は、数は少ないながらもとうとする兄弟姉妹を得たことを無上の喜びとするものです。なぜなら、そのような兄弟姉妹というのは、生まれてから何十年にもわたる歩みの中で互いに自ら見出して兄弟姉妹となるのです。また、たまたま同じ親だったとか、同じ

大学だったとか、そのようなこともたのみとしないものなのです。

私は、この仙台でも、そのような幸運に恵まれたなど、そんな感慨を覚えながら、大学を去ることにいたします。

教育現場との関わり



理科教育講座
教授
池山 剛

最近の本学教員公募では教科専門の教員にも教育現場との関わりが求められているようです。わが身を顧みると採用時教員免許こそ

持っていたものの教育経験はありません。齢とともに教育現場に近づく機会は増えましたが、実習校訪問以外では県の理科教育推進協議会が最初の経験でした。このときお世話になった指導主事T先生は教育心理学ピークの卒業生でした。小学校の理科授業やイベント等を参観し意見を述べさせて頂きましたが、むしろ当方が勉強になりました。その後継のS先生も同窓生の方でした。

その後理科の先生方と取り組み続けたフレンドシップ事業に生徒を送り出して下さる先生方の中にも多くの同窓生のお名前がありました。そして附属小学校長の三年間には公開研究会他多くの機会に授業を見せていただき、また何度かは授業もさせていただく貴重な機会を得ました。校長の経験はその後のSSH運営指導委員や教科書審議会につながりました。

最初の協議会の話がなぜ自分に来たのか考えませんでした。今思えば理科の池山を使ってみようと思われた方があったということでは有難いことです。期待に応えられたか不安ですが、お陰で以後学

校現場に近づくことができました。本学での三十七年余、同窓生の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

ひとに支えられた教員生活



音楽教育講座
教授
吉川 和夫

初めて青葉山を訪れたのは、平成四年六月頃のことでした。少し緊張していたためか、構内で迷ってしまい、音楽棟を見つけられませんでした。途中で二人の学生さんに道を尋ねましたら、「あの林の中にあるのが音楽棟です」と大変丁寧に教えてくれたことをよく覚えています。同年十月に着任しましたが、道を教えてくれた学生さんの真面目で優しい印象は、その後一緒に過ごしたたくさんの学生さんたちに通じるものだと思います。

宮教大での生活で強く印象に残ることのひとつは、平成二十三年



校長先生からの卒業記念授業

の東日本大震災です。学位記授与式も入学式もなく、経験したことのない不安の中で過ごしましたが、授業再開の前に、音楽科の学生全員が一人も欠けることなく集まってくれたのを見たときには涙が出ました。七月にかけては、広報誌「あおばわかば」震災特集号の発行に携わらせてもらいました。もうひとつは、平成二十八年から三十年にかけて附属小学校長をつとめたことです。可能性の塊である子どもたち、元気で前向きな教職

員と楽しく過ごした三年間は、長かった大学教員生活最後のご褒美のようにも思いました。

ひとに支えられた教員生活だったと思います。制度や評価もないがしろにはできませんが、これからもひとを育て、ひとが支え合う宮教大であってほしいと切に願います。

自然豊かなキャンパスの中で



美術教育講座
教授
浅野 治志

昭和五十六年七月、美術教育講座の絵画の助手として着任いたしました。初めて美術棟の中庭から見上げた空が、切り取られた一枚の絵画のように青く美しかったことを覚えています。美術棟の前には小さな円形の池が、隣には白樺の林が長閑な雰囲気を出し、涼しげな高原の避暑地といった印象を受けました。また陶芸場の裏には時折、カモシカ、リス、キジな

ども顔を見せ、近くの小川では山椒魚も。私の専門領域は美術・陶芸ですが、特に伝統工芸は自然・風土・環境といったものが大きく関係しています。伝統の中で生まれ培われた紋様・形・意匠などは日本特有の文化を形成しています。そのようなことをぼんやりと意識しながら、美術棟から制作を行う陶芸場まで行き来した毎日。わずかに数百メートルの距離にスイセン、ヤブツバキ、コブシ、カタクリ等々、雑草に眼を向けるとさらに様々な植物と昆虫も。その自然が生み出す色彩豊かな情景。移りゆく四季折々の中で多くの発見、感動がありました。「暦」の語源は日を数える意味の「日読み」であることを最近になって知りました。様々な変化や四季の移ろい、その折々に自然の循環のリズムが潜むことに改めて気付かされます。その後助手を十一年務め、助教授を九年、教授となつてから今日に到るまでのトータルで三十八年間。昭和、平成、令和の三つの時代を過ごすことができました。有り難うございました。

平成の時代と宮城教育大学



美術教育講座
教授
桂 雅彦

二年間のイタリア政府給費留学生としてミラノ工科大学での留学を終えて平成元年に帰国しました。グラフィックデザインからインテリア、建築デザインまで行い、全国に年間契約の企業を抱えて、バブリーな時代を背景に順調に事務所を経営しておりました。ありきたりなデザインでは納得せず、こだわり抜いたデザインは、その企業担当者に理解してもらったり、変質してしまったり、拒絶されたりで、やや納得できない部分を抱えながら約四年の月日が流れて宮城教育大学に着任することになりました。学校教育自体を変えなければ良いデザインも浮かばれないような気がしたからです。平成四年十二月から二十七年間、あつという間でした。学内外の多くの



Maison et Objet PARIS 2010

人々の協力を得て、日本、東北、宮城、仙台のために自分の能力を活用して様々なプロジェクトを担い、本学で担当した様々な委員会では、それなりの改革を行うことができたと思います。これも各委員会の先生や事務職員の方々の協力があってこそです。昔の教授会は、遅くまで行っていて、個人的な先生も多く、懐かしく時代の変化が実感できます。平成という時代が終わる年に最後の年度を迎え、新しい令和の時代が始まっています。難しいやや窮屈感のある時代になりましたが、魅力的な大学を是非、創造していただきたいです。

学びのよろこび



英語教育講座
教授
高橋 潔

平成元年度から宮城教育大学に勤め始め、令和元年度に定年となることとなりました。以前勤めていた大学と合わせて三十八年間、国立大学に勤務したことになります。いろいろな思い出の中でも、自分にとって一番大きなことは、一九九一年〜九二年の米国コーネル大学現代言語・言語学科と二〇〇二年〜〇三年の英国ブライトン大学言語学科での客員研究員としての研究生生活です。コーネル大学では、言語学史の講義で、それまで自分が学んで来たことが、言語学史的時間軸と言語観的空間軸によって作られる次元の中でどのように収まるかがわかったという学びのうれしさを実感した気がします。パズルでピースがぴたりとはまるうれしさといった感じでしょう。



Cornell University Main Library, 1992

うか。また世界第一線の意味論研究者の授業をその先生方の初版本を教科書として読みながら聴講し、意味論を深く理解出来たという充実感も得られました。ブライトン大学での語用論の諸論を学べたことも含めて、日本にはできなかったことを学び、研究できたと思えます。単純化して言わせてもらえば、本当に分かっている人から学ぶのが、やはり一番だということです。自分自身が教える側として出来ていれれば良いが…と反省も覚えます。このような二度もの長期海外研修を可能にしてくれた英語教育講座をはじめ、宮城教育大学のみなさんには感謝の言葉しかありません。

恩師は今

野鳥に癒されて



宮城教育大学 名誉教授
花島政三郎
 学校教育（生徒指導）
 （平成17年3月）
 退官

「合研」（合同研究室）というユニークな実験の場を提供され、学生たちとの「自主ゼミ」を実践し、一年間の活動を総括して「そだつ」という冊子が作成されてきました。思えば、濃密な人間関係が出来ていたことを痛感しています。

大学を去った後、宮城学院女子大学での五年間の研究室生活をもってスクールカレンダーからも解放され今は自由の身です。青葉山を毎日眺めながらの日々の生活の中で、特に冬鳥が飛来する時期をバードウォッチングの好機ととらえ、我が家の庭に来てくれる小鳥たちとの触れ合いを大事にしています。長

年、趣味のカメラに収めてきた写真を活用しての写真集の自主出版を二〇〇七年に『小さな庭に野鳥を迎える愉しみ』という形で、続いて二〇一四年に『続・小さな庭に野鳥を迎える愉しみ』を出してきました。加えて、二〇一六年には『写真集・野鳥と遊ぶ愉しみ・仙台の小さな庭で』を本の森から出していただきました。教育現場で仕事に押しつぶされそうになっておられる方の癒しになってくれたらと願っています。

現在は仙台の上空に現れる「彩雲」の美しさと神秘に魅せられ、主婦業の定年制を受け入れ、新米主夫として奮闘中です。



▲出版した写真集



▲庭に設けられた野鳥の水飲み場の水が凍ったときにできた不思議な氷像！何故？お分かりの方教えてください。

災害支援に関する取り組みについて

2019年11月6日に開催されました同窓会理事会での協議の結果、2019年度同窓会予算の予備費を活用し、同窓会として下記の取り組みを行いましたのでご報告申し上げます。

1. 台風被災地における学生ボランティアに対する活動支援について

このたびの台風第19号で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

災害発生後、宮城教育大学の学生が、宮城県内外の台風被災地の学校において、被災地支援のボランティアに継続的に取り組んでおります。こうした活動を支援するため、宮城教育大学防災教育研修機構・311いのちを守る教育研修機構と協議し、台風19号で甚大な被害があった丸森町内の小学校において2月17日から21日の5日間に学習支援ボランティアに従事した学生に対して活動費として2万円を支援いたしました。

2. 首里城火災に対する支援について

首里城の火災に際し、特に沖縄県ご出身・ご在住の同窓生の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

那覇市長の城間幹子氏も本学の卒業生（中学校教員養成課程国語専攻、昭和47年度卒）であり、2016年3月発行の同窓会会報27号においては創立50周年記念の巻頭言もいただいております。

火災の報がありました後、多くの同窓会理事・会員の皆様方から、同窓会事務局に対して、「同窓会としても支援を行うべきではないか」との声が寄せられました。そこで、理事の皆様にご協議いただき、同窓会予算の予備費から10万円を支援金としてお送りいたしました。

多くの出会いに感謝



武田 香代子

小学校教員養成過程
芸術・体育系体育コース
平成六年度卒

娘の入学で久しぶりに宮教大の構内に入りました。きれいに改装された萩朋会館に驚きました。変わらぬ五号館や体育館に、懐かしさと学生時代の思い出が蘇ってきました。体育コースとしてバスケット部に所属していたのでいつも往復していたように思います。そして思い出されるのが、仲間との出会い。保健体育専攻の兵たちと一緒に実技授業で汗を流したことは、今の学校現場での指導に役立っています。中でも奥松島の遠泳、蔵王のスキー合宿は、水泳とスキーがあまり得意でなかった私にとって過酷な授業でした。辛さが楽しさに変わったのは、指導してくださった先生方、そして先輩や後輩を含

めた楽しい仲間たちのおかげです。共に学び共に語り合った毎日でした。

卒業後はまさに教員採用の水河期。何度も挑戦していた時に東子を始め三人娘が誕生して、その後をやっと採用でした。遠回りをしたものの、今は家族が私の大きな支えです。教職はやりがいもある反面、様々な壁にもぶつかります。同僚の先生方はもちろん、学生時代の仲間にも助けられることも多くあります。出会いは一生の宝ですね。今でも続く仲間との出会いに感謝したいと思います。
(登米市立登米小学校勤務)



親子 DE 同窓生



今しかできないことを
全力で

武田 東子

初等教育教員養成課程
体育・健康コース二年

宮城教育大学での大学生活も折り返しとなりました。大学でしかできないような経験もでき、あつという間の二年間だったように感じます。
私は、教員である母や小学校の恩師の影響で教職を志しました。この大学に進学したのは、将来は地元宮城で活躍したいという思いからです。幼い頃から運動することが好きで小学校から現在までバレーボールを続けています。大学での部活動は、高校までの部活動と違って学生が主体となります。より考えてプレーしたり、活動の運営の仕方を学んだりしています。部員同士で意見を出すことも多いので、たくさん刺激を受けながら大学ならではの楽しさを

を感じています。また、いくつかのボランティアや研修に参加しています。その中でも石巻・南三陸への被災地研修は、私にとってとても大きな経験でした。語り部の方に現地で行った一つひとつのお話は、どれも心に訴えかけるもので命を守ることとはどういうことなのか学びました。
これから実習等、より専門的に教職について学んでいくこととなります。様々な経験を積み、教員に必要な力を培っていきたいと思います。





邦楽部

小松 ユミ

小学校教員養成課程・国語コース
昭和五十四年度卒

琴線に触れて

新歓で配付された邦楽部勧誘のチラシ。見た瞬間に「これだ！」と決めたことを思い出します。体験を経ての即入部。自分を含めて三名の入部でした。存続が危惧されましたが、時を経て部員の数も安定しました。

部の設立がいつ頃だったのかは分かりませんが、当時は外部から先生（生田流）をお招きし、温習会の曲を決めていただき、数名ずつご指導いただきました。先生が来校できないときは、萩朋会館の部屋で、時間を見つけて各々で自主練習をしました。

大学祭で、和風ライブカフェの模擬店を出店し、演奏を聴いていただきながら、お茶と和菓子の提供をしたことも思い出されます。

今改めて写真を見て、時の移ろいと懐かしさを感じずにはいられません。今でこそ学習指導要領に「伝統音楽」の文字が見られますが、当時は、純粹に箏や三弦、尺八の音色が好きで、それらの響き合いによる、文字通り琴線に触れる心地よさを味わいながら、みんなで活動できていたように思います。

（塩竈市立月見ヶ丘小学校勤務）



昔 今 サークル

邦楽部／箏曲部

邦楽部が箏曲部として新たにスタートしました。



箏曲部

柴田 雛子

初等教育教員養成課程
子ども文化コース三年

箏を弾けることに感謝

宮城教育大学箏曲部は二〇一七年五月にサークルとして設立されました。現在は一〜三年生の五人で活動しています。中学校の音楽の授業で聴いた箏の美しい音色が忘れられず、初心者ではあるものの大学に入ったら絶対に箏を始めたいと思っておりました。顧問の先生、活動場所、箏、部員の条件が整い、サークルを立ち上げるのが出来た時の喜びは今でも忘れることができます。箏は弾けば弾くほど奥深く、様々な色の音や旋律を奏でることのできる素晴らしい楽器です。今年の大学祭では部員皆での演奏を多くの方々に聴いていただき、本当に嬉しかったです。また、同じく和楽器の演奏活動をしている東北大学学友会邦楽部の皆様とも交流を深めることができ、演奏会にも賛助出演させていただき幸せでいっぱいです。

これからの目標として、箏の魅力をもっと沢山の人に届けるためにも、部員の数を増やし、演奏する機会を増やせばいいなと思います。今、箏を弾ける環境にあること、一緒に演奏できる仲間がいることに心から感謝しております。これからも宮城教育大学箏曲部が続いていくことを願います。



事務局だより

今年度の同窓会総会は、泉裕行氏（昭和六十三年卒業第二十一回生）を実行委員長として、二〇一九年八月十日（土）、宮城教育大学萩朋会館にて盛大に執り行われました。講演を賜りました制野俊弘氏（昭和六十三年卒業第二十一回生）に心より御礼申し上げます。また、総会の後には、大学のホームカミングデーとの共催行事や合同懇親会も開催され、多数の方々にご出席いただきました。ご多忙な中、総会開催にご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。次年度は平成元年度卒の皆様を中心に実行委員会が結成され、準備が進められているところであります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

でも、台風被災地における学生ボランティアに対する活動支援や首里城火災に対する支援などの取り組みを行っております。同窓会といたしまして、今後も同窓生同士の支え合いを大切にしてまいりたいと考えておりますので、情報提供など引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、同窓会会報の発行を含め、同窓会活動は皆様からの会費によって成り立っております。未納の皆様におかれましては、このことをご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の日頃のご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き同窓会活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 越中 康治
(平成十二年度卒)

同窓会費納入先

郵便振替

022402-34558

宮城教育大学同窓会

同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）

編集後記

30号記念号を経て、表紙デザインを一新しました。誌面デザインを担当して下さった宮城友栄社の方、編集委員、同窓会事務局の皆さんと意見を交わし合い、新しい時代にあってもこの会報誌が、宮教大を巣立った皆様の明るい未来の架け橋になってほしい—そんな願いを込めてこのデザインにたどり着きました。もちろん緑豊かな大学のイメージも大切にしました。今まで同様、御愛読いただけたらうれしいです。

さて、今号もたくさんの皆様に御寄稿いただきました。本当にありがとうございました。今号は、時代の要請や変化に合わせて発展している大学の様子だけでなく、いつの時代も変わらない執筆者一人一人の熱い思いが感じられる誌面となったと思

います。一人でも多くの皆さんに手に取っていただくために、この会報誌がお手元に届いていない御友人がいらしたら、ぜひ本誌を御紹介ください。WEB版でも閲覧可能です。次号もどうぞよろしくお願いいたします。
編集長 野中 映里
(仙台市教育局教育指導課勤務)

【編集委員】

橋本 俊一 (昭和 48 年度卒)
末永 精悦 (昭和 53 年度卒)
鈴木 朝二 (昭和 53 年度卒)
平間 正信 (昭和 62 年度卒)
浅野 郁子 (昭和 62 年度卒)
加藤 良樹 (平成 6 年度卒)
堀之内 優樹 (平成 8 年度卒)
野中 映里 (平成 10 年度卒)
近藤 ゆき (平成 13 年度卒)
早坂 美幸 (平成 15 年度卒)

恩師訃報

追沼 龍三先生 (本学名誉教授
被服材料学、繊維工学)
令和元年 七月 九日
渋谷 孝先生 (本学名誉教授
国語科教育学)
令和元年十一月二十五日
土屋 瑞穂先生 (本学名誉教授
彫塑)
令和二年 一月 十五日
が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

同窓会誌が Web ページで見られます

第28号から同窓会誌をWebページで見られるようになりました。宮城教育大学Webページのメニューから「卒業生の方」をクリックし、「同窓会」リンクボタンをクリックすると同窓会誌PDF版を閲覧できます。パスワードは、「yamaniarite16」(やまにありて16)です。

同窓会ならびに会報についてのお問い合わせ Eメール: alumni@adm.miyakyo-u.ac.jp